

各地区情報

▼北海道

北海道支部、この一年

白幡 嘉信(HBC)

昭和百年、戦後80年の節目の歳、2025年がスタートしました。コロナ感染症でここ数年、活動が制限されていた北海道民放クラブでしたが、コロナ明けの2024年度は従前に近い活動をする事が出来ました。

4月25日に日本民放クラブ・木村寿行理事、事務局長のご出席をいただき「総会・懇親会」を31名の出席で開催し、会則の一部変更を含めた各議案を全て承認可決しました。

総会に引き続き開催された懇親会は久しぶりのアルコール付きとなり、参加会員は思い出話に花を咲かせ、この一年、健康に過ごすことが出来るよう誓いました。

同好会活動も「囲碁の会」「カラオケの会」は毎月開催し、「歩く会」「歩くスキーの会」「煌の会(イベント+グルメの会)」「ゴルフ会」「俳句の会」「ファイターズ応援団」

は年間予定をほぼ計画通りに開催することが出来ました。



2024年5月14日第81回歩く会 二条市場前にて

また、当クラブのボランティア

対外活動の「社会活動部会」は、一般市民の方々にも開かれた講演会を4回開催しました。まず4月19日にロシア特派員から帰任したUHB報道情報部の関根弘貴氏による「戦争すら他人事のロシア国民」。7月24日にはジャーナリスト井手裕彦氏の「妻と子のシベリア抑留」。10月21日にSTVラジオパーソナリティの工藤じゅんき氏による「工藤じゅんきの

人生いろいろ十人十色」。そして2025年1月15日には存亡の危機にあった旭川・旭山動物園をアイデアと努力で再生させた元園長の小菅正夫氏による「すべての動物たちから教えてもらった」です。

各回とも受講者からの評判が大変よく、一般市民の方々からも「次回を楽しみにしています！」との声をいただいています。

紙芝居も公演依頼が多く、老人福祉施設を中心に月2〜3回のペースでフットワークも軽く公演しています。

2024年の締めくくりだった「忘年懇親会」を12月6日に28名の参加で実施し、一同無事に一年間を過ごせたことを喜び、今回の参加者の最高齢者、95歳の鳥羽達一郎さん(HBC)の元気なスピーチには会員一同大感動、新入会員の奥出誠さん(HBC)の締めでお開きとなりました。

今年度は役員改選の年ですが、新任・再任の役員が協力してクラ



忘年会にて最年長、鳥羽さんのご挨拶



忘年会、締めの乾杯

ブの健全な運営にあたり、北海道民放クラブの最大の課題となっている「会員増対策」に努力していく所存です。